



【先週の礼拝メッセージより】

「赦さなかったしもべ」

マタイ18:21~35よ

●主イエスに対してペテロが「人は7回まで赦せばいいのですか？」という質問をしたところ、主は「7を70倍するまで」と答えられ、続けて、「赦さなかったしもべ」の例えを話された。

●王は1万タラント（現代なら6千億円）の負債を持っていたしもべをかわいそうに思い、その負債を帳消しにしてくれたのであったが、そのしもべは、自分に100デナリ（100万円）の借金をしていた同じしもべ仲間を赦そうとはしなかった。王は赦さなかったしもべを怒り、赦しを取り消し、彼を獄につないだ・・・というのがたとえの内容であったが、他者の赦しは、神の御前で必須であるというのがポイントである。

●主イエスが一人で借金を6千億円も抱えるというような、想像しがたい金額をあえて使ったのは、神が与えてくださった赦しの大きさが想像を絶する大きさであること、すなわち「尊い御子の死」という最も高額な支払いを神がしてくださったことを強調するためであった。同時に、私たちに対する隣人の借金を100万円としたのは、私たちにとり、100万円は「実感できる痛み」「現実的な負債」「実害の領域」だからであり、まさに赦しの「実践」が問われる領域だからである。

●では、主イエスの私たちに対する要求は何か？それは、日々、十字架を見上げることにより、神が下さった赦しの大きさを黙想し、心に刻み、私たちがまた、他者に対して「赦しに生きること」なのである。

●最後に赦しについては、1)意志、2)理性、3)感情の順番があることも理解する必要がある。赦しは神の命令なので、神への従順ゆえに「意志的」に赦すことが先に来る。裁きを神に委ね、復讐の権利を放棄することが先ず第一に来る。次に、自分も他人も真に自由になるためには、赦しを宣言するしか道がないことを悟って「理性的」に赦すのである。そして最後に生傷である心の傷が癒えて来る中で多少、遅れることもあるが、「感情的」にも赦せるようになるのである。■

【人生を正しい方向に導く「主への感謝」】

●聖書の中で「感謝」という言葉は何度も出て来ます。旧約聖書（新改訳）の中で「感謝せよ」と訳されている命令は19回、「感謝します」は14回、「感謝し〜」も16回、「感謝しよう」3回、一つずつ抜き出して読む時に改めて主に感謝をささげることが、正しいこと、ふさわしいことなのだ、という思いが深まります！

●新約聖書でも主イエスは4000人の給食の時に七つのパンと魚を取って「感謝をささげ」、パンと葡萄酒についても「感謝をささげ」、ラザロを生き返らせた時にも、父なる神に感謝をささげました。使徒たちもことあるごとに神に感謝をささげ、パウロも手紙の中で繰り返し、神に感謝をささげています。そして私たちにも感謝するように命じています。

★ **エペソ5:20** 「いつでも、すべてのことについて、私たちの主イエス・キリストの名によって父なる神に感謝しなさい。」

★ **コロサイ2:7** 「キリストの中に根ざし、また建てられ、また、教えられたとおり信仰を堅くし、あふれるばかり感謝しなさい。」

★ **コロサイ3:17** 「あなたがたのすることは、ことばによると行いによるとを問わず、すべて主イエスの名によってなし、主によって父なる神に感謝しなさい。」

★ **第一テサロニケ5:16-18** 「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。」

●上記の命令を是非、一つずつ、心に覚えましょう！人生、必ず正しい方向に向いていきます。

●逆に、感謝しないと大変なことになります。**ローマ1:21**でパウロは、「人が神さまをあがめず、感謝もしなかった」ということこそ、人の罪の原点だ、と訴えており、さらに、その結果、人の「思いは虚しくなり、無知な心は暗くなり、あらゆる偶像礼拝に陥るようになり、罪の奴隷となって死すべきものとなった、と宣告しています。

●感謝する、しない、はまさに人生の分水嶺なのです！